



2022年5月13日

各 位

会 社 名 G F A株式会社

代表者名 代表取締役 片田 朋希

(スタンダード市場 コード番号：8783)

問合せ先 執行役員最高財務責任者 津田 由行
(TEL 03-6432-9140)

特別損失及び営業外収益の計上並びに通期連結業績予想と実績の差異に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、2022年3月期（2021年4月1日～2022年3月31日）に助成金を計上するとともに、最近の業績の動向等を踏まえ、2022年2月14日に公表した業績予想と本日公表の同期の実績に差異が生じたので、お知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上

当社完全子会社の株式会社 CAMELOT におきまして、新型コロナウイルス感染症による業績への影響を鑑み、のれん、有形固定資産及び無形固定資産の減損損失を計上いたします。

(1) のれんの減損

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、想定以上に長期にわたり外部環境が悪化した影響を踏まえ、今後の計画を見直した結果、当初想定していた収益計画に遅れが生じる見込みであるため、2022年3月期連結決算において同社に係るのれんの減損損失約 217 百万円を特別損失として計上いたしました。

(2) 有形固定資産の減損

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に伴う市場環境の悪化が大きく、M&A当初の見込みよりも売上が低迷しております。

そのため、直近の業績の動向等を踏まえ将来の回収可能性を慎重に検討した結果、同社が保有する固定資産（建物等）の帳簿価額を減損処理し、特別損失 192 百万円を計上いたしました。

(3) 無形固定資産の減損

当社完全子会社の株式会社 CAMELOT においては、新型コロナウイルス感染症の影響が甚大であった2022年3月期までの業績に対して2023年3月期には事業成長性は見込まれているものの、外部環境の悪化により、当初想定よりも収益計画に遅れが生じていることに伴い、2022年3月期決算においては営業損失が発生しております。

そのような状況を鑑み、同社のソフトウェア資産について、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づいて保守的に回収可能性を検討いたしました。

その結果、当該ソフトウェアの帳簿価額を減損処理し、特別損失 36 百万円を計上いたしました。

2. 営業外収益の計上

雇用調整助成金、時短協力金及び文化芸術振興費補助金等につきまして、営業外収益の助成金等収入として、以下の金額を計上しております。

(1) 計上金額

2022年1月から2022年3月の計上金額 26百万円
(2022年3月期 通期の累積計上金額 80百万円)

3. 2022年3月期通期連結業績予想と実績との差異 (2021年4月1日～2022年3月31日)

(単位：百万円、円・銭)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	1,274	△641	△688	△688	△28.12
今回発表実績(B)	1,196	△699	△721	△1,160	△58.66
増減額(B-A)	△78	△58	△33	△472	
増減率(%)	△6.1%	—	—	—	
(参考)前期実績 (2021年3月期)	2,652	△1,464	△1,347	△1,693	△127.93

(注)新株予約権の行使による発行済株式数の増加に伴い、1株当たり当期純利益については、以下の株数により算出しております。

前回発表予想(A)：24,766,200株

(2022年2月14日時点の発行済株式数より自己株式300,449株を除いた株式数)

今回修正予想(B)：26,432,000株

(2022年3月31日時点の発行済株式数より自己株式300,449株を除いた株式数)

【修正の理由】

この度の業績予想の修正につきましては、のれんの減損損失、有形固定資産の減損損失、無形固定資産の減損損失を計上したことが主な理由でございます。

最終的な連結業績につきましては、売上高78百万円、営業利益58百万円、経常利益33百万円、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては472百万円、それぞれ前回予想を下回った着地となっております。

以 上